



メモを取りながら熱心にインタビューする生徒

梁川 高校

創立…大正 8 年
学科…普通科
生徒数…70 人(男 40 人 / 女 30 人)
校訓…知性 誠実 責任
統合…令和 5 年 4 月～保原高校と統合(※令和 3 年度・4 年度入学者は卒業まで梁川校舎で引き続き学ぶ)

地元で育ち、働く生徒が多いから、大切なのは職業観。仕事への情熱は？ やりがいは？ 生の声に刺激を受ける。

生 徒の約 8 割が市内在住で、地元企業に就職する生徒も多い梁川高校では、「総合的な探究の時間」に企業訪問をしています。地元の人との協働を通し「自分の存在意義や働く楽しさを学び職業観を身につける」「地元の良さを知り地域愛を持ち、自分を大切にできる大人になってほしい」という狙いがあります。授業では企業について自分で調べ、興味を持ったことや疑問点を整理。企業へのインタビューをし、内容をまとめて発表します。分かった時の達成感を味わってもらうため、教員の助言は最小限。昨年は 28 人(現 3 年生)が企業を訪ねました。仕事への情熱ややりがいを聞くことで働くイメージが具体的にになり、企業が取り組んでいる地域貢献(住民とのゴミ拾い、地元の祭りへの協力など)を知る機会にもなりました。今年度も SDGs(持続可能な開発目標)の視点を学ぶことにも力を入れ、探究の授業を行っています。



聖光 学院

創立…昭和 37 年
学科…令和 4 年 4 月～普通科(進学探究コース、スポーツ探究コース、福祉探究コース)、工学科(機械工学コース、プロダクト工学コース、情報工学コース※2 年次より選択)
生徒数…590 人(男 465 人 / 女 125 人)
校訓…神と共に働く人に

学科再編のキーワードは「探究」。地域との関わりで、自分なりの答えを見つける力を育む。

来 年 4 月から普通科では毎週探究学習・探究活動の時間を多く設置します。保育園や高齢者との交流、小中学生へのスポーツ指導、規格外桃の活用を生産者と一緒に考えるなど、さまざまな活動を行います。工学科では地元企業と共同で水耕栽培の器具を作るなど、すでに実践的な授業を行っています。企業の職人を講師として招くなど、さらなる連携を図ります。地域で学ぶことであらゆる年代の人との関わりで視野を広げ、失敗から学び、自分なりの答えを見つける力を育む狙いがあります。地域を深く知れば、市外出身者にとって第二の故郷になる、また市内出身者が地元に戻るきっかけになるなど、地域の担い手を育てる意図もあります。地域とつながる第一段階として、今年度は 7 月 29 日(土)にオープンスクールを開催予定。生徒自らが地域の物産を販売し、学校も地域も知ってもらう企画を実施します。



地域で学ぶ、共に成長する 高校 × 地域 = ?

選挙権年齢の引き下げ成人年齢の引き下げ。高校生にとって社会がより身近になる中、市内 3 つの高校では地域住民や企業と主体的に関わる授業が行われている。その狙いとは？

協働し能動的に学ぶ資質を
人口減少や技術革新、情報化やグローバル化が進む現代。今後の社会を担う高校生には、持続可能な社会の担い手として社会の変化に積極的に向き合い、他者との協働で課題を解決する資質が求められるようになりまし。来々 4 月からの新学習指導要領においても、生涯にわたり能動的に学べる資質を育む「主体的・対話的で深い学び」が重視されています。
変わる高校・統合と学科再編
令和 5 年 4 月には保原高校と梁川高校が統合が決まっています。福島県教育委員会は、統合高の特色の一つとして「地域を学びのフィールドとした探究的な学習をとおして、課題発見力や課題解決力など学力以外に必要な資質や能力を育成し、将来、地域のリーダーとして活躍する、社会に貢献できる人材を育成する学校」を挙げています。

地域を元気にする取り組みはあちらこちらに



保原高校美術部では、桃マドレーヌ mofet のパッケージをデザインした。以前には仮置場の壁面に絵画を描くプロジェクトや、絵本「すてきなニットやさん」の制作など、地域に元気を与える企画を多数実施している。



令和 5 年台風では、全校生徒や聖光学院の生徒が、ボランティアとして被災住宅の片付けを手伝った。水を吸って重くなった布団の片付けや写真の救出など、地域の大きな力となった。学ぶことが大切です。活動を行います。社会の変化に合わせて学校も変わっていきますが、地域と協働し、持続可能な社会を実現していく存在であることに変わりはありません。地域と高校が手を携えながら共に学ぶことが大切です。



市役所でのフィールドワークで市の課題を学ぶ

保原 高校

創立…大正 11 年
学科…普通科(全日制・定時制)、商業科
生徒数…全日制:378 人(男 178 人 / 女 200 人)、定時制:43 人(男 27 人 / 女 16 人)
校訓…質実剛健 和衷協同
統合…普通科は令和 5 年 4 月～梁川高校と統合、定時制は令和 4 年 4 月～福島中央高校と統合

まずは伊達市の課題や現状を知るところから。課題を解決するには？柔軟な発想で伊達を元気に。

保 原高校商業科では、地域企業や市役所と連携し、伊達市を元気にする企画を通して地域の課題解決を目指す「地域連携授業」に取り組んでいます。授業の目的は社会に出てから直面する課題を解決できる能力を養い地域経済で活躍できる人材を育てること、また、地域を理解し地域愛を育むことです。一昨年は柿、昨年はニットを題材にした企画が内閣府の「地域創生☆政策アイデアコンテスト」で東北経済産業局長賞を獲得。全国審査会に出場しました(昨年は優秀賞受賞)。また、商品開発の授業では地元食材を利用した新商品を企画し、企業に提案。プロの目線からさまざまなアドバイスを受けています。道の駅や地元製菓店などの協力を得て試作し、校内販売で市場性商品化したときに売れるかどうか)などを確認しています。梁川高校との統合で商業科はなくなりませんが、地域連携授業は続ける予定です。

未来の担い手に、伝える。未来の担い手から、教わる。 協働のサイクルをまわそう

持続可能な地域社会の鍵は、若者が握っている。若者の気づきや発想に、大人が気づけない課題や忘れてしまった感情があるから。高校生の学びは、地域の学び。共に学び、共に成長しよう。